

心豊かな暮らし

<http://www.yabashi.co.jp/house/>

縁_{en}

2016 Vol.41 winter





季刊
縁 2016 Vol.41 winter

contents

P 3 >>

赤ちゃんの頃から、本物の木の温もりに触れさせたい
岐阜県海津市 Y様邸

P 7 >>

矢橋の分譲住宅 「RESIDENCE 昼飯」
麗しき住環境の創造 Residence series Policy

P 9 >>

YABASHI ORIGINAL FINISHING MATERIAL 仕上材
塗装の技術 「矢橋オリジナル無垢フローリング」

P 13 >>

名古屋ショールーム 「三豊居」

連載
中山道赤坂つれづれの記 文/故 清水春一
岩田涼菟

心豊かな暮らし

表紙写真 牡丹園内 寒牡丹
P.1 名古屋ショールーム「欧」
P.2 名古屋ショールーム「悠楽」





03



02

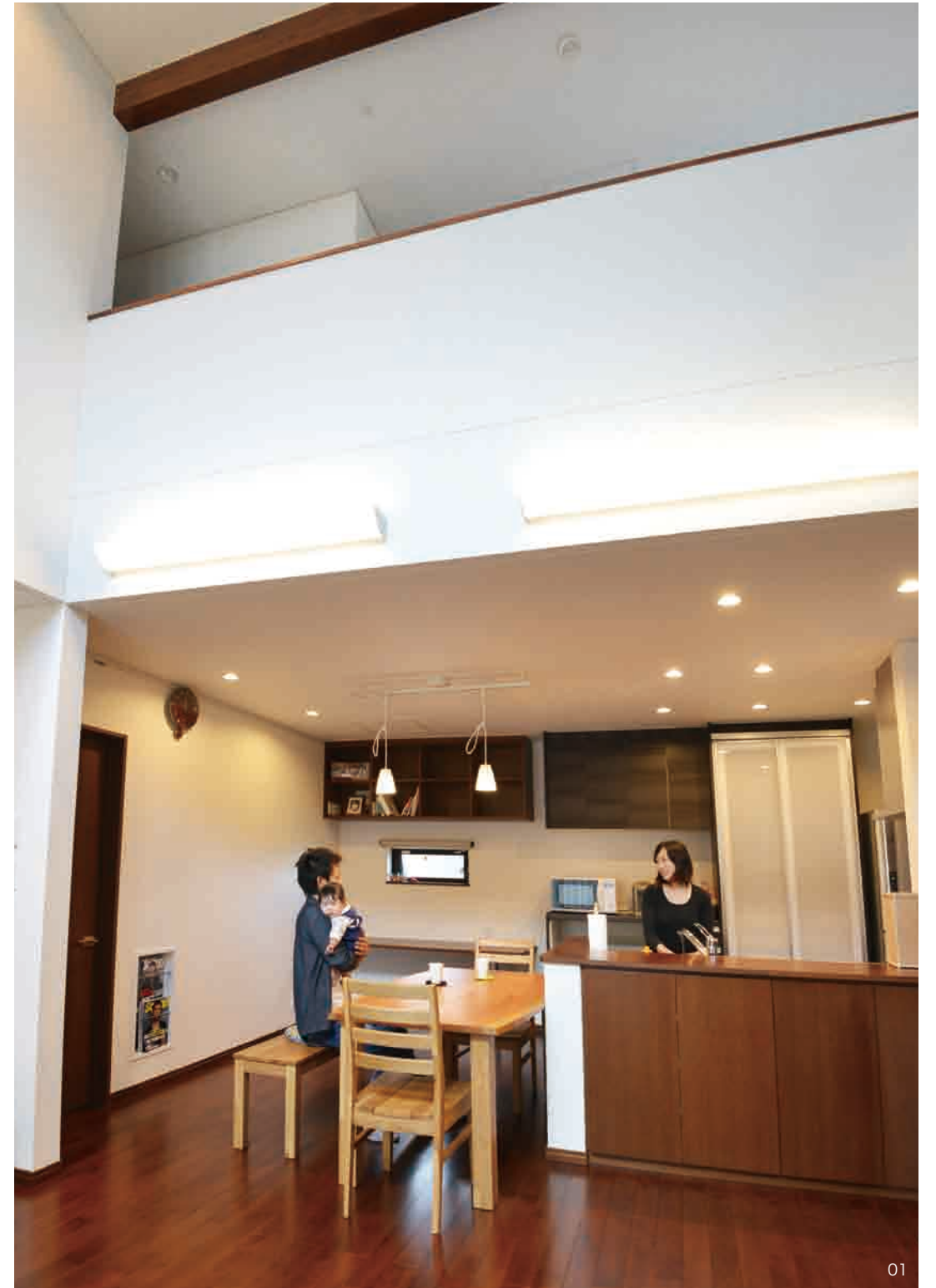


05



04

01 リビングにある大きな吹抜けと2階ホール。家族の気配を感じることができる
02 オープンキッチンからはリビングが見渡せる。IHクッキングヒーターは掃除が楽で気に入っていると奥様 03 リビングイン階段は、子どもが成長しても毎日きちんと顔が見えるようにと 04 サーフィンなどスポーツが好きでアクティブなご主人。新しい趣味を楽しみたいと、最近自転車を購入した 05 子どもが幼い頃から、本物の木のぬくもりを身近に



01

赤ちゃんの頃から、本物の木の温もりに触れさせたい

岐阜県海津市 Y様邸

「裸足で過ごしていると、無垢フローリングの質感が気持ちいいです」とY様。
それぞれ自然豊かな地域で育ったご夫婦は、木の温もりを感じられる家で子育てをしたかったそう。きっかけは矢橋の家に住む、奥様の幼馴染み。無垢材がふんだんに使われている家を見て気に入り、モデルハウスへ足を運んだ。工場見学会にも参加され、加工される構造材などを実際に見たことにより、安心感が持てた。赤ちゃんの頃と、子どもが巣立った後は1階をメインに生活するため、寝室や水廻りはすべて1階に配置した。理想は平屋の使い勝手だという。大きな吹抜けのあるリビングには、たっぷりと光が入り、爽やかな風が通り抜ける。子どもには、無垢材の質感に触れながら育ってほしいと、これからの暮らしが楽しみだ。



営業担当 住宅部
主任 山田健司

Y様とはO様のご紹介というご縁からお話を頂きました。
当初は時間が合わず私以外のものが対応させていただきましたが、それが弊社をさらに知って頂くきっかけだったと思います。建築中にお子さまご出産され、Y様の幸せ作りのお手伝いができて嬉しく思います。ご家族様のご成長を楽しみにしております。

06 キッチンには矢橋オリジナル造作の吊り棚とカウンターが。奥様が仕事や家事に使う。将来的には子どもの勉強机としても。大きな無垢のダイニングテーブルは、ご主人のセレクト **07** 2階ホールは子どもの成長に合わせて共有の寛ぎスペースにも。将来的にはテレビを置くなどし、セカンドリビングのようにも使いたい **08** ご主人が希望した和室は、時に客間としても利用できる **09** 洗濯物の室内干しスペースとしても使用できる2階ホールには、たっぷり収納できる小屋裏収納が **10** リビングの吹抜けからは、照明をつけなくても明るいほど光が入り、風が通り抜ける **11** 玄関ホールには矢橋オリジナル照明「透灯(とうとう)」が。用途に沿った配置に収納があり、スッキリと暮らせる **12** 格子が印象的な懐シリーズの外観

Consept

四季の移ろいを感じる街並み

一邸一邸の庭が、季節ごとに楽しめる植栽、食べられる実のなる木などでつくられており、庭がつながり、四季の移ろいを感じる心地よい街並みとなる



お隣と共有する木々

プライバシーを確保しながらも、できるだけオープンな庭をつくることによりお互いに緑を共有できる



集合駐車場

玄関先の緑が確保しやすいように、独立した駐車スペースを用意。もう一台停めたい時や、来客用の駐車スペースとしても活用できる



※区画図に表記した建物はイメージです



街のエントランス

人々が集う麗しき街の入口は、緑で覆われている。道路との高低差をつけることにより街全体に変化をもたらし奥行きを出している

自然樹形が美しい山木

個性豊かな枝ぶりが楽しめる山木を取り入れることにより、街に自然の雰囲気をつくりだす



image

家庭菜園

手をかけて育てた野菜はおいしい。また自分で作るから安心。植物や土に触れ自然を学ぶことができる食育の場であり、家族やご近所の方との会話もはずむコミュニケーションの場となる

温故知新

矢橋の家の理念

人が住むべき緑豊かな心休まる良い環境に、自然素材を活かした日本の伝統を受け継ぐ家に住もう。日本の原風景を取り戻し、心豊かな暮らしができる住環境をつくる。

矢橋の家のこだわり

安全 安心 本物 快適 家事 収納 子育て 趣味



住宅部 〒503-2122 岐阜県不破郡垂井町表佐 410-1 TEL.0584-22-0001
品質マネジメントシステムの国際規格である ISO 9001 認証取得企業
宅地建物取引業免許番号：岐阜県知事（12）第 1306 号 岐阜県宅地建物取引業協会会員 建設業許可番号：国土交通大臣許可（般-28）第 26337 号 東海不動産公正取引協議会加盟

「レジデンス 屋飯」のお問い合わせはこちらまで。

0120-884-039

<http://www.yabashi.co.jp/house/> 矢橋林業 検索

矢橋の分譲住宅

うるわ
麗しき住環境の創造
～Residence series～



ゆるやかなカーブの道

道がゆるやかにカーブしているため、スピードが出しにくく抜け道にもなりにくいいため安全

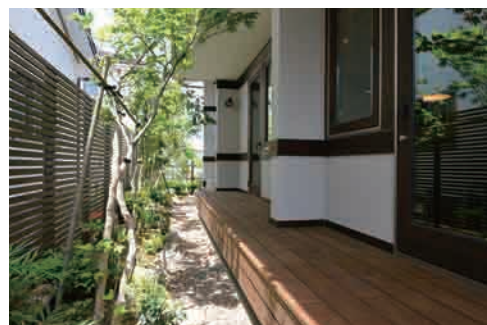


つながるコミュニケーション

視界が広がり、ご近所同士コミュニケーションが取り易い動線を確保。つながりが感じられ、円を描くようなコミュニティーがうまれる

一年を通して美しいお庭

春の新緑、夏の木陰、秋の紅葉、冬の木立。アプローチの花壇には季節を彩る草花たち…一邸ずつお庭のカレンダーを作成し、季節毎に変化する美しいお庭をご提案している



Rd

RESIDENCE HIRUI

レジデンス ポリシー

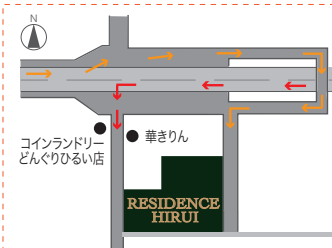
Residence Policy

現在、一般的に家建てるフローは完成した家の見学から始まるケースが多いのではないかと思います。家はある場所の、ある地盤強度の上に建っているという事を忘れがちです。つまり、どこに建てるのか？はむしろ最も重要な事なのだと思います。まず、安心、安全。次に緑豊かな環境があり、出来るだけ便利という順番で考えるべき事だと思います。たとえ建替えを検討していたとしても、まず今の場所が安心、安全な場所であるのかを考えてみるべきなのです。そして住んでみたいと思えるような場所をイメージすべきだと思います。

我々は「心豊かな暮らし」への第一歩は、ここなら住んでみたいと思って頂けるような場所を見つけ出し、創造できるのかです。安心安全であり、美しい風景があり、将来出来るであろう「心の通じ合う」コミュニティーが想像できるような場所をご提供しなければならないと考えております。遠くから我が家を見ると緑の木々に囲まれた一つの邸宅（Residence）のように見える。そのような街を作りたいと思っています。そこにお住まいになる方々は「心豊かなコミュニティー」が自然と醸成されていく、そんな街を理想としています。

土地を選び、「心豊かな暮らし」という理想の暮らしが出来る場所を、住宅のモデルハウスを造るように、単に土地分割ではない、麗しき場所（土地）を造り上げるポリシーを持たなければならないと思っています。

Life Information



[交通機関]
■JR美濃赤坂線 荒尾駅…約2,000m
■東海環状線道路大垣西I.C…約2,700m
[教育・公共施設]
■青墓幼稚園…約850m
■青墓小学校…約850m
■赤坂中学校…約1,600m
■青墓地区センター…約280m

[金融機関]
■JAにしみの 青墓支店…約1,000m
■十六銀行 赤坂支店…約2,000m
■大垣西濃信用金庫 荒尾支店…約1,400m
■大垣共立銀行 赤坂支店福葉出張所…約2,100m
■青墓簡易郵便局…約1,100m
■カネスエ敷地内ATMコーナー…約200m

[医療機関]
■金森医院…約1,200m
■大垣セントラルクリニック…約1,700m
■いはらクリニック…約550m
■けやきデンタルクリニック…約850m

[ショッピング]
■カネスエ…約200m
■ドラッグユタカ…約200m
■セブンイレブン…約300m

■物件概要 ●岐阜県大垣市屋飯町字東町田 419番1～●開発面積/1922.8㎡●総区画数/7区画●今回販売区画数/3区画●敷地面積/174.74㎡～196.50㎡●販売価格/820万円～890万円●用途地域/第1種住居地域●地目/宅地●建ぺい率/60%・70%●容積率/200%●道路幅員/6m●水道/公営上水道●排水/公営下水道●ガス/個別プロパン●電気/中部電力●取引形態/売主

[公園]
■玉池公園…約1,000m
■屋飯大塚古墳歴史公園…約800m
■赤坂お茶屋屋敷跡…約1,500m
■美濃国分寺跡…約1,800m



The background of the slide features a close-up of wood paneling. The top-left section is a grid of squares in two shades of wood. The bottom-left and right sections feature a chevron or herringbone pattern, also in two shades of wood. The text is overlaid on the grid section.

Yabashi Original

Finishing Material

矢橋オリジナル無垢フローリング



樹種：チーク



模様：ヘリンボーン(フレンチスタイル)

樹種：クリ



模様：市松

樹種：ナラ

矢橋の技術力 塗装

素材の良さを生かし付加価値を付ける職人の手仕事

矢橋オリジナル無垢フローリングは、1枚1枚丁寧に塗装をしています。建材として使用する木は何種類もあります。それぞれの木の良さが生かせる様、何度も微調整をしながら色や塗り方を検討します。弊社では、着色のセンスも技術だと考え大切にしております。木目を美しく見せ、かつ塗膜の強度も保てるバランスを見極め塗装した弊社の無垢フローリングは「矢橋の家」全邸で使用しております。ぜひ本物の木の温もりを感じてみて下さい。

塗装の違い



弊社の塗装

木材の質感や木目が活かされている



既製品

木目がつぶれている

矢橋オリジナル無垢フローリングの塗装工程



7 検品
傷やほこり、塗装のムラがないか、手で触り目で見て1枚ずつ確認し、品質管理を行っている。



6 仕上げ
3回目の吹き付け。層を重ねることで塗膜の強度も増し、木目をより美しく見せることができる。



5 研磨
細かい目の紙やすりで軽く研磨する。ほこりがあれば1つずつ取り除き、最終確認をする。



4 中塗り
2回目の塗料の調合。厚みを出すため下塗りより硬いウレタン塗料をスプレーガンで吹き付ける。



3 研磨
下塗りにより毛羽立った木地を平滑にし、次の中塗りの塗料がのり易い様に少し粗目の紙やすりで研磨をする。



2 下塗り
ウレタン塗料をスプレーガンに入れ吹き付ける。細かい粒子により生かされる木目は、ベタ塗りでは出せない風合いになる。



1 着色
ハケで着色をする。色ムラ無く均一に塗るため、スピードが重要となる。



ベトナム 木工加工工場

弊社のグループ会社であるVINAWHITE(ビナホワイト)は、ベトナムのゲアン省クイホップ県(ハノイから南方約300Km)にあり、石灰石の採掘を主事業としている。この会社にも木工加工部門を設置し、ベトナム人技能者を育成し、その技能を活かして建材の加工やフローリングの塗装などを行っていきたくと考えている。



夢の実現

昔の住宅は施主様と大工の棟梁が綿密に相談して、間取りは勿論の事、主要な材料の木材は材木屋に同行して選び決めていました。施主様にも大工に負けないほどの木材の知識があり、材木の知識と目利きが出来る力量が有りました。大工の棟梁は選ばれた材料を精魂込めて一本ずつ手で刻み、構造材の加工をして棟上げをしました。基本的に手仕事の良さが昔の住宅には溢れていました。現代の住宅は安全安心の性能が数値で保証され、且つどの季節も全ての部屋が適温に保たれた断熱性能が向上し、エネルギーの消費量を抑えた機能性のある家が可能になりました。しかし、残念なことに自然素材の心地よさ、手仕事の良さが感じられるような温もりのある家が失われていくように思います。

矢橋は人が暮らす家には、数値で示された構造強度、人工的な暖かさや、涼しさが必要ではありますが、更に人の手の仕事の温もりがあり、「心豊かな暮らし」を実感できる事も必要条件だと考えております。

日本では年々人口が減少し、働き手が少なくなりつつあります。しかし、ベトナムでは意欲にあふれる若い働き手が豊富です。弊社はベトナムの地方(田舎)の村で、人の手による仕事を代行してもらいたいと思っています。それは日本では最高級となってしまった「人の手による仕事」です。矢橋のポリシーと技術を伝え、品質の高い(日本と同じ品質の)手仕事をベトナムで実現してもらいたいと考え、日本から現地へ指導者を派遣して取り組んでおります。

更に良い家とは何か?を問い続け、究極の家造りを目指して参ります。矢橋のオリジナル建材にご期待頂きたいと思ひます。

矢橋林業株式会社
代表取締役社長 矢橋龍宜



Yabashi Original Finishing Material

フローリング以外にドアや建材も自社にて加工し塗装をしています。(一部をご紹介します)



オリジナルドア



壁パネル



腰壁(樹種：ナラ)

ゴムの木



ゴムの木

ゴムの原料となる樹液を採取した後、処分されていたゴムの木。成長が早く木肌に色むらが出易いため、明るい色調の塗装には向かないが、濃い色を付けることで高級感を出すことができる。弊社のグループ会社があるベトナムでも入手し易く、環境にも優しいため、今後もゴムの木の活用を行っていきたく。

ゴムの木を使用した建材



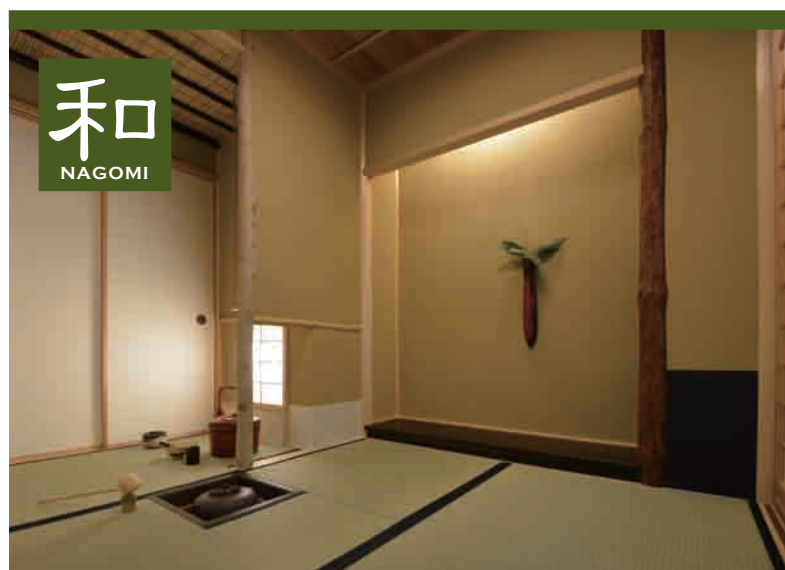
巾木



廻縁(ピクチャーレール)



方立



矢橋林業株式会社
 YABASHI

住宅部 〒503-2122 岐阜県不破郡垂井町表佐410-1 TEL.0584-22-0001
 品質マネジメントシステムの国際規格であるISO 9001 認証取得企業
宅地建物取引業免許番号 岐阜県知事(12)第1306号 岐阜県宅地建物取引業協会会員 建設業許可番号 岐阜県知事(特ニ24)第2879号 東海不動産公正取引協議会加盟

名古屋ショールーム「三豊居」

TEL. 052-870-9290 営業時間: 10:00 - 18:00
 定休日: 水・木(盆・年末年始)

<http://www.yabashi.co.jp/house/>

長者町糸びす祭り

2016年10月22日(土)・23日(日)
 名古屋ショールームがある長者町通りを中心に行われた
 賑やかなお祭りに出展。



矢橋オリジナル商品であるベンチや余呉農園の新米、いちじくジャムなどを販売。
 ショールームも多くの方々にご覧いただきました。



繊維問屋街における大フリーマーケット
 地元飲食店によるグルメ屋台
 あいちトリエンナーレ2016との協働によるアートパフォーマンス
 主催: 名古屋長者町協同組合、長者町糸びす祭り実行委員会

欧

名古屋ショールーム

三豊居



岩田涼菟

うみゆり連載集 中山道赤坂つれづれの記 故清水 春一

ひのうい
丁亥十月七日

一方を頼む ちからや 冬がまへ

十月九日

金生山の老翁、常に風雅を唱へて老せず

水仙の いづれか 花の葉とも

この俳句は、伊勢(三重県)の岩田涼菟が、宝永四年(一七〇七)の秋、赤坂での作であり、これは矢橋木巴(藤十郎)に招かれた涼菟が、木巴一座の人々とともに俳諧連句(歌仙)を巻いた(俳筵を開催)のときの前書と発句です。

赤坂地下連衆と俳筵を催す

東京大学文学部教授森川昭先生の著書『谷木因全集』(一九八二年刊)は、同氏が前後十年ほどかけられた努力の成果であり、貴重な史料発掘によってまとめられた前人未到の労作で、日本俳文学界への貢献に対して高く評価され、文部大臣賞をうけられました。

そのような森川先生の熱心に取り組まれた研究調査の段階で、中山道赤坂宿の矢橋家史料の中にあつたのが、木巴自筆の遺稿です。写本半紙本二冊(表紙とも五十九丁綴)の表紙に「宝

永四丁亥年」とあるので、外題も内題も記されていないため、森川先生が仮に「木巴連句書留」と題をつけて、この本の中に収録しています。

その内容は、木巴一座の連句十五巻で、制作年代は宝永四年から翌五年の九月まで、およそ一年間にわたって、その都度書き込まれたものであると察せられます。これは、木巴の師匠である谷木因の業績研究にとっては誠に貴重な資料である、と著者森川先生自身が書き留めておられます。

この連句一座に参加している人々は、涼菟、木巴、呼猿、岨前、有止、廬川、残仙、風口、如柳、可云などの雅名だけで、その実名はまだ調べてみないとわかりませんが、これらの人々は恐らく赤坂地下の連衆であり、はるばると伊勢から訪れた涼菟を歓待し、金生山に同道案内して、虚空蔵さんに参詣し、明星輪寺の客殿辺りで、濃尾平野の眺望を楽しみながらの俳筵が開かれたであろうと推察されます。

岩田涼菟は『俳諧人名辞典』によりますと、名は正致、通称又次郎といい、権七郎ともいっており、その雅号は、初め団友、のち団友斎と号し、伊勢山田の神職でした(説には神楽男

であつたとも)。伊勢神風館の三世をついでおり(神風館の名は、久居の城主藤堂任口の命名)、その俳風は軽妙かつ平明であつて、特に涼菟の創めたものが、その後定着、発展して、伊勢風俳諧と呼ばれました。

天和ころから俳人であつた涼菟が、貞亨元年(一六八四)、芭蕉が伊勢参宮のときに初めて入門したのか、或いはそれ以後であるのか判然としませんが、ともあれ、芭蕉の晩年の弟子であり、その後、北越、九州、中国地方にたびたび行脚して活発に行動しており、いわゆる伊勢派の普及と基礎を築いた人であつたといえます。勿論のことながら芭蕉に接近してよく仕え、また各務支考(岐阜市北野の人で、芭蕉十哲の一人として有力な俳人であり、美濃派を創立)とも密接な交友に結ばれていました。支考と共著の『三足猿』や『伊勢新百韻』をはじめ、『皮籠摺』『山中集』『潮とろみ』『行脚辰』など、多くの著書が遺されています。

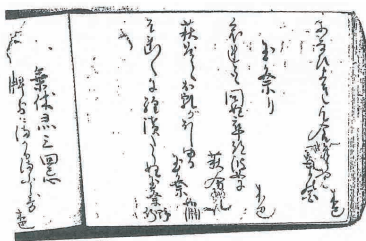
また彼は享保二年(一七二七)四月二十八日、享年五十九歳で没しましたが、その臨終のとき、枕辺に侍っていた門人たちから辞世の句を是非にと請われたのに応えて「合点ぢや そ

ります。軽妙な彼の本領はその生涯を一貫していたということです。

そうした風独特な人生を生きた涼菟が、赤坂の矢橋木巴やその師匠谷木因らと交遊を重ねていた実証として、前記のような資料はまた味わい深いものがあるといえましよう。



岩田涼菟



矢橋木巴の筆跡「俳諧書留」